

平成 28 年 11 月 16 日

UD21 にいがた定例会議議事録

日 時：平成 28 年 8 月 26 日 15:00~17:20

場 所：ホンマ健康ランド

参加者：秋元、渡辺、早見、松井、磯野、熊木、江畑、滝沢、小林、轡田、丸山、神田
(12 名)

議事内容

1. 県からの委託事業について

- 今後は課税業者として活動を行っていく。
- 新潟県介護ロボット関連産業創出事業(江畑)
 - これまでの調査によると介護職員に需要がありそうなロボットは以下の 4 種類
 - ◇ 介護職員を補助するロボット(リフト型、スーツ型)
 - ◇ コミュニケーションロボット
 - ◇ 掃除などの周辺作業を行ってくれるもの
 - ◇ 音声筆記、自動筆記などを行う記録用のロボット
 - 今年度は過去 2 年間の調査結果からニーズ・シーズを明確にし、書面にまとめる。それをもとに来年度からの具体的な事業案を提案していく。
 - 目的や必要なものを明確にして各企業に声をかけ、必要であればコンソーシアムを作成する。

2. 投票所の UD 化についての調査結果及び今後の対応について(熊木)

- 課題
 - 車いす使用者や介助が必要な人への適切な設備配置ができていない。
 - 立会人以外の総合案内人の配慮ができていない。
 - ◇ 選挙権の年齢制限を引き下げ、投票の促進を進めていこうとしているなかで高齢者や若年者へのサービスが行き届いていない現状がある。
- 投票所にスロープや車いす等の設備配置は必要になるが、場所借りをしているところでは設備の変更をすることは難しい。そういった場所では仮設設備の配置や、介助を行う人員の配置を行う。投票時に発生する様々な状況に対応できるように提言していく。
- 総合案内人は必ずしも人間ではなく、ペッパーのようなロボットを配置してもよいと考えられる。

- 介護病院や老人ホームでの投票ができるように投票所の設置基準の見直しが必要と考えられる。
- スロープ等が設置されている施設もあるが、集会所のような昔ながらの建物では段差の多い場所が多数あり、施設ごとの設備の差が大きいと感じられる。2～3 キロ圏内に段差の多い投票所と段差のない投票所がある場所があった。投票所の設備等の情報を開示し、投票者が自分で投票場所を選べるようにすると良いと考えられる。
- 現状は昔からのやり方にとらわれている。これまでにない、より良い方法を考える必要がある。

3. 新パンフレットについて

- UD21 にいがたのパンフレットを新しくした。
 - 写真を利用し、活動内容をわかりやすくした。
 - 参加企業を更新し、五十音順に並べ替えた。
- 今後は古いパンフレットを処分し、新しいものを使用する。
- UD21 にいがたの名刺が必要な人は滝沢に連絡する。

4. その他情報交換

- 赤ちゃんの駅
 - 中川清兵衛記念バーベキューに留め具をはめるだけで組み立てられるタイプの赤ちゃんの駅を設置してもらった。
 - ◇ 用途や使用人数を見てもらうようお願いしている。
 - ◇ テント内はベビーベッドを置き、板敷にしている。
 - 新津で授乳テントとして使用された(新潟日報掲載)。
 - ◇ 新潟市に赤ちゃんの駅を入れており、そこから各地に貸出を行っている。
 - 東京オリンピックに向けて赤ちゃんの駅のアピールを行っている。
 - 公園等の人の集まる場所に赤ちゃんの駅を置いてもらうよう提言していく。
 - 常設にすることでコストを下げるかもしれないため、仮設にこだわらないことが大事。
 - テントがチープすぎると利用者に敬遠される可能性があるため、コスト削減ばかりを考えるのではなく、質にも気を使う必要がある。
 - おむつ替えをする際には手をよく洗うため、水道設備も必要になると考えられる。
- 本間組：福島環境放射線の今
 - 道路や建物の除染はほぼ終了した。
 - 牧草地に関しては種をまいて芽が出るようになるまで管理を続けていく。
- ストックバスターズ
 - 除草をしながら土をすくえるスコップを開発中。

➤ 公園の管理作業を行っている企業や団体にアプローチをかけていく。

- 日本災害食学会

- 食べ物以外にもものづくりも関係するため、UD21 参加企業でも取り組みを行う。

- 災害時にだけ役に立つものではなく、日常生活でも役立つものを考えていく。

- UD21 にいがたでペッパーの販売サポートを行う。

- ペッパーの契約をしたい企業をソフトバンクに紹介する。

- ペッパーの普及活動のほか、UD21 でどのように活用できるかを検討していく。

- おもてなし規格認証 2016

- 30 項目ある認証項目のうち、15 個以上当てはまれば認証を受けることができる。自己認証制度。認証を受けた企業はおもてなし認証マークを使用できる。

- 統括は一般社団法人サービスデザイン推進協議会が行っている。

5. まとめ

- 実態や今後やるべきことが明確になってきている。今後はより、参加企業のビジネスにつなげられるように活動していく。

- それぞれやるべきことに担当を振り分けて活動をし、実績をつけていく。